

# 「第4次豊田市国際化推進計画（案）」における意見募集結果の公表について

## 1 概要

### (1) 実施期間

2025年12月12日（金）～2026年8月13日（火）

※E モニター 2025年12月15日（月）～12月24日（水）

### (2) 寄せられた意見の内訳

提出数：54通（Eメール4通、Eモニター50通）

意見数：54件（※感想除く）

※E モニターの選択式アンケートのみの回答者は除く

意見	計画全体に対する意見	4件
	基本目標1「互いに尊重し、共に支え合う地域社会の実現」に対する意見	48件
	基本目標2 国際社会及び地域社会で活躍できる人材の育成に対する意見	2件
感想等		5件

## 2 寄せられた意見に対する豊田市の考え方

意見等の概要は、主旨を損なわない範囲でいただいた意見を集約及び要約しています。

また、賛否の結論だけを示した意見や今回の計画と直接関係がない意見等（その他感想等）については、市の考え方は示していません。

### (1) 計画全体について

件数	意見等の概要	市の考え方
2	本計画は分野横断的な取組を含むため、市の関連計画との連携が重要である。特に多文化共生の推進においては、文化やスポーツとの結びつきが大きいことから、第2章「計画の位置づけ」における連携計画として、「豊田市文化芸術振興計画」や「豊田市生涯スポーツプラン」などを追加してはどうか。また、「共働」に加えて「共創」の考え方を取り入れている点の評価するとともに、本計画がこれらの計画と連携し、市の国際化の進展と市民生活の充実につながることを期待する。	本計画は、本市のまちづくりの方向性を示す「第9次豊田市総合計画」やつながりが強い「豊田市相互理解と意思疎通に関する行動計画」と「第5次豊田市教育行政計画」を掲げておりますが、他の関連計画とも整合及び連携を図ります。

1	生活摩擦への対応、相談・通訳業務の増加、未収債権、関係機関連携に伴う事務負担など、計画を進めるうえで発生し得る負担やリスクについて、事後に検証できるよう最低限の情報を示すべきである。	ご指摘の負担やリスクは、計画の策定を契機に新たに生じるものではなく、国際化の進展に伴い既に（または今後）生じ得る課題と認識しています。本計画は、こうした課題を踏まえ、必要な対応の方向性や連携のあり方を整理することで、想定される負担やリスクを減らし事業を適正化することを目的としています。一方で、負担・リスクに関する情報の示し方は、施策ごとの性質によって整理の方法が異なり、かつ、多岐に渡るため、計画本文に一律に明示することは想定していませんが、実施にあたって必要な把握と対応は行っていきます。
1	海外の方々の意見は計画に織り込んでいるか。	計画の策定にあたっては、「外国人の意見を聴く会」を開催し、豊田市在住の外国人住民の方々から対面で意見を聴く機会を設けています。いただいた意見は、計画内容を検討する際の参考としています。

## (2) 基本目標 1「互いに尊重し、共に支え合う地域社会の実現」について

件数	意見等の概要	市の考え方
1	第5章の基本目標1の②の「主な取組」の「内容」に、「外国人住民が自国の文化芸術を紹介できる機会や、住民同士がスポーツを通じて交流する機会等を提供します。」を追記してはどうか。 文化芸術やスポーツは、多文化共生への理解促進や交流のきっかけとして有効であり、言語の壁を越えた地域参加の手段としても重要であることから、こうした機会を積極的に拡充することを期待する。	基本目標2の目指す姿(4)国際理解が地域の力となり、学びが循環しているに掲げる「国際理解の推進」の中で、国際イベントの開催や多様な主体との連携を通じて交流機会を創出する旨を示しており、同趣旨を包含しています。 「外国人住民が文化芸術を紹介したり、スポーツで交流したりする機会の拡充」も、国際理解を深めるための具体的な交流創出策として位置づけています。

1	<p>現状、市の日本語教室は初級の生活日本語中心にとどまり、長期定住を志向する層の多様なニーズに十分対応できていない。実務日本語や分野別日本語、就労・生活設計と連動した段階的な学習プログラムの拡充、専門機関との連携等を検討してほしい。</p>	<p>本計画では、外国人住民が地域で日常生活を送るために必要となる基礎的な日本語の習得を重視しています。</p> <p>一方で、上級、専門的な日本語学習は目的や必要性が個々に異なるため、基本的には本人の選択に委ねられる性格のものと考えています。</p> <p>そのうえで、必要な方が学びにつながるよう、学習機会の案内や関係機関との連携等を通じた環境づくりに努めます。</p>
1	<p>外国人住民は母語 SNS やコミュニティメディアを主な情報源とする場合が多い。また、市の公式 HP は多言語化されていても必要情報が埋もれやすい。各言語コミュニティの情報発信主体との連携、情報の整理・選別による発信、意見や要望を施策に反映する双方向の仕組みを整えてほしい。</p>	<p>本計画では、外国人住民が必要な生活情報にアクセスしやすいよう、多言語化、やさしい日本語の活用による情報発信と、相談対応の充実を位置付けています。ご指摘のとおり、外国人住民の中には母語 SNS やコミュニティメディアを主な情報源とする方も多く、市の公式 HP だけでは必要な情報が届きにくい場面があると認識しています。そのため、情報を分かりやすく整理して発信する工夫に加え、計画に掲げる「キーパーソンとの連携」等を通じて、外国人住民の声を把握し施策検討に活かせるよう取り組んでいきます。</p>
1	<p>外国人の雇用が非正規に偏りがちな就労状況を踏まえ、行政・企業・コミュニティが連携し、採用ニーズと連動した職業訓練、安定雇用への移行支援、多文化に配慮した職場環境づくりを進めて欲しい。</p>	<p>本計画では、外国人住民の安定した就労と自立を支援するため、取組項目として「就労支援」を位置付けています。</p> <p>行政、企業、関係団体等の連携のもと、キャリア形成支援や就労のための日本語学習支援のほか、多様な人材が活躍できる職場環境の充実支援など、計画に掲げる取組を通じて、安定した就労につながる環境づくりを進めていきます。</p>

3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分散(孤立)して暮らす外国人住民とも、つながれる仕組みが必要。</li> <li>・外国籍住民の支えによって成り立つ社会であることを踏まえ、国籍に関わらず共に安心して暮らせる地域づくりが重要。</li> </ul>	<p>外国人住民の居住の散在化を踏まえ、地域差がある中でも、交流のきっかけが生まれるよう取組を進めます。第4次計画では、交流館等の身近な拠点や多様な主体との連携を通じて、ゆるやかな交流の機会を提供するとともに、外国人住民が地域活動に参加しやすい環境づくりを進めます。あわせて、地域の中で外国人住民との橋渡し役となる「多文化共生リーダー」の育成、活躍を通じ、分散(孤立)して暮らす外国人住民ともつながりやすい体制の強化に努めます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人が言葉や毎日のくらしで困らないよう支援してほしい。</li> <li>・日本語が得意でなくても参加しやすい交流の場(体験型など)があるとよい。</li> </ul>	<p>本市では、外国人住民が日常生活で困らないよう、日本語学習支援に加え、多言語化・やさしい日本語による生活情報の発信や相談対応を進めてきました。第3次計画期間には、市公式HPのトップページに「International」を設け、多言語情報を集約するなど、必要な情報にアクセスしやすい環境整備も行っています。第4次計画においても、「とよた日本語学習支援システム」や幼児向け日本語教室、プレスクール、「ことばの教室」等による学習支援を継続するとともに、交流館等の身近な場を活用した交流機会づくりに努めます。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これ以上移民が増えるのは治安・安全の面から非常に危険なのでやめてほしい。</li> <li>・まずは日本人の生活を最優先に考えてほしい。</li> <li>・計画は反対であり、移民受け入れは反対。</li> </ul>	<p>本計画は、外国人の受入れを促進することを目的としたものではありません。近年、国の制度や社会情勢等を背景に、全国的に外国人住民が増加する傾向があり、本市においても今後さらに増えることが見込まれます。本計画は、こうした環境の変化を踏まえ、誰もが安心して暮らせる地域づくりのために、多文化共生の取組を計画的に進めるものです。市民の安全、安心を第一に、生活ルールや交通ルール等の分かりやすい周知(多言語化・やさしい日本語を含む)を進めるとともに、相談対応の充実や関係機関・地域等との連携により、誰もが住みよいまちづくりに取り組めます。</p>

6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に話せる・関われる場があるとよい。</li> <li>・交流しながら、地域の歴史や文化への理解も深めたい。</li> <li>・言語や文化の違いによる戸惑いもあるため、相互理解のための交流を進め、誰もが気持ちよく暮らせるよう市として取り組んでほしい。</li> </ul>	<p>外国人住民の地域活動参加を促進し、住民同士の交流と共働を通じて相互理解と信頼関係を構築する取組を進めます。また、交流館をはじめとした地域資源や多様な主体との連携により、ゆるやかな交流と相互理解の機会を提供し、日常の中で自然に参加しやすい場づくりを進めます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本のやり方を一方的に強制するのではなく、文化の違いを前提に理解し合いたい。</li> <li>・海外生活の経験から、多文化の中で暮らす大切さを感じる。</li> <li>・すべての外国人と日本人が互いを十分に理解できるとは限らないため、文化の違いによって生じるすれ違いを前提に、どのように相互に受け入れていくかを考えることが重要。</li> </ul>	<p>やさしい日本語の普及啓発や、講座、イベント、学校教育等を通じた多文化共生への理解促進に取り組み、市民一人ひとりが互いの文化や価値観を認め合い、尊重し合える意識の醸成を図ります。また、多文化共生の地域づくりを効果的に進めるため、地域で活躍するキーパーソンとの連携や、地域の中で外国人住民との橋渡し役となる「多文化共生リーダー」の養成に取り組みます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ出し・分別のルール違反が見受けられ、粗大ごみが普通ごみに出されるなど、具体的な問題が発生している。</li> <li>・外国人と一括りにすることは適切ではないが、ごみ出しや地域のルールやマナーについては守られるよう配慮や対応が必要だと思う。</li> </ul>	<p>行政情報や地域情報について多言語化、やさしい日本語の活用を進め、外国人住民が必要な情報を正しく理解できる環境整備に取り組みます。生活ルールについても、地域と連携しながら、分かりやすい周知や相談対応を進め、ルールの定着と生活環境の維持につなげます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車のルール・マナーが守られず怖い思いをしたことがある。言葉の壁がある中で誰がどのように指導・周知するのか分かりにくいと感じる。</li> <li>・一方で、ヘルメット着用や縦一列走行など良いマナーも見られる。</li> </ul>	<p>交通安全に関する啓発を進めるとともに、交通ルールの周知や防犯啓発の多言語化・やさしい日本語化により、言葉の壁がある方にも分かりやすい情報提供を行います。地域とも連携し、誰もが安心・安全に暮らせる環境づくりを推進します。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人が増え、日本語が十分でない人の日本語支援をしたい。</li> <li>・日本語支援ボランティアに対して、市として交通費や謝金などの支援をしてほしい。</li> </ul>	<p>地域の日本語支援ボランティア等の活動が広がるよう、関係団体と連携し、募集、研修、情報共有などの支援に取り組みます。また、ボランティアの活動を支えるための支援については、既存の制度や関係団体の取組状況を踏まえ、持続可能な形となるよう検討していきます。</p>

11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際化の推進は大いに賛成だが、地域の規則、習慣、ルールを理解して守ってほしい。</li> <li>・一部のマナー違反が印象として残り、悪いイメージにつながってしまう。</li> <li>・ルールやマナーを教える、指導する仕組みが必要。</li> </ul>	地域で安心して暮らすために、生活ルール等を分かりやすく周知し、理解促進に取り組みます。多言語化、やさしい日本語の活用により必要な行政、地域情報を伝わりやすくするとともに、相談対応の充実を図ります。
1	新たに来日、転入する外国人に対し、生活習慣の違いから生じやすい苦情や地域で問題となりやすい事項を整理して事前に説明することで、誤解やルールの軽視を防ぐことができると思う。	転入時は、生活に必要な情報を理解する重要な機会であるため、問い合わせや行き違いが生じやすい内容を含め、分かりやすい情報提供の工夫（一覧化、やさしい日本語、多言語化等）を進めます
1	・災害に備えるには、日頃からの近所付き合い、地域活動への参加が大切。	地域の中で外国人住民との橋渡し役となる「多文化共生リーダー」の養成、活躍を進め、地域活動や防災訓練等への参加促進、日頃からの関係づくりの強化につなげていきます。

### (3) 基本目標 2 国際社会及び地域社会で活躍できる人材の育成について

件数	意見等の概要	市の考え方
1	異文化に触れることは重要だと思うが、大人になってからよりも、子どもの頃から交流の機会がある方が良いと感じる。	こどもへの国際理解教育や、市民向けの出前講座の実施、国際イベント等を契機とした交流機会の創出を通じ、地域社会の国際理解を促進します。学校・地域・関係団体と連携し、子どもが早い段階から多様な文化に触れられる機会づくりに取り組みます。
1	誰もが安心して暮らすためには、地域における交流が最も大切だと感じる。WRCのようにお互いの交流を深められるイベントを多く希望する。	国際イベントや多様な主体との連携を通じて交流の機会を創出し、市民の国際理解の促進につなげます。